

血管造影動画ネットワーク運用の現状

荒居広明

心臓血管研究所付属病院

・当院のカテーテル検査の現状

1972年11月カテーテル検査開始.

1999年度のカテーテル検査1434件(内PCI348件).

2001.8.1現在カテは18394件(内PCI3837件).

・Network導入の経過

1998年9月シネフィルム撮影廃止.11月ACOM Net導入.

1998.9.7からDataをNetworkに保存.

2000.8.3現在4000人分,890.4GBのDataが保存装置内にある.

・Networkの構成

カテーテル室2室,画像観察装置8台,画像サーバ1台(画像容量153GB,500人分),画像保存装置MOジュークボックス1.7TB.

・ネットワーク導入による特徴

シネカメラを外したことにより,X線照射線量が約半分.

撮影後,すぐに画像観察装置からの動画の再生が可能.検査終了後,すぐに独立した検査Dataになる.

画像Server内の最近の5ヶ月分はすぐに再生可能.

CD-R記録のための操作はあるが,保存装置のMOジュークボックスの操作は必要ない.また,保存装置の場所の増設の必要なし.(5年分)

画像観察時に画像の選択が簡単ですぐに再生可能.

QCA,LVAがOnlineで処理可能.PCI中に解析結果を検査室内に表示可能.

検査室内に過去の動画を表示可能.

撮影されてServerに転送されたDataは夜間に保存装置に転送される.

約5ヶ月後保存装置内Dataの再生は5分ほどの待機時間が必要.

Serverおよび各画像観察装置などの管理が必要,メンテナンス契約が不可欠.

・まとめ

技師の仕事量の大幅低減.

画像取扱いの簡便性,即時性.

Dataの信頼性,長期保存性.

装置,Dataの管理の必要性.